有線放送モニターアンケート結果

もっとニュースを団体・住民の利用が少ない

有線放送が昭和五十五年十二月に開局して一年が経過しました。この間〝やかましい〟〝ためにならない〟〝聴いていない〟など、さまざまな意見が聞かれますが、果してどうでしょうか。

有線放送協会では放送事業の充実向上を図る一環として、村内各地域、各層から四十名の有線放送モニターを委嘱し、ご意見を承ることとしています。

このほど、同モニターに対する第一回アンケート調査結果がまとまりましたので、ご紹介いたします。

調査項目は、情報の入手方法からスピーカーの状態まで十一問もあり、紙面の関係でその一部にとどめましたが、これ以外に特に多く指摘された点では、「男性アナウンサーがいてもよい」三三%、「ボリュームを上げても大きくならない」二一%、「夏と冬の放送時間を設けては」二一%、など検討すべき内容が多くありました。

調査対象は四〇人、回答二八人、回収率七〇%でした。

問1. あなたは、村、農協、地域、団体などの行事やできごとは、何によって知ることが多いですか。次のうちから二つ○をつけてください。

ア、人からの聞き伝え	12.5%
イ、隣組長からの伝達	7.2%
ウ、議員など村内要職者から	1.8%
エ、村・農協・地域団体の役職をしている関係上	5.3%
オ、回覧板	12.5%
カ、議会報	—
キ、広報よこごし	21.4%
ク、有線放送	26.8%
ケ、関係機関・団体の文書、広報	7.2%
コ、その他	
（無回答　5.3%）	

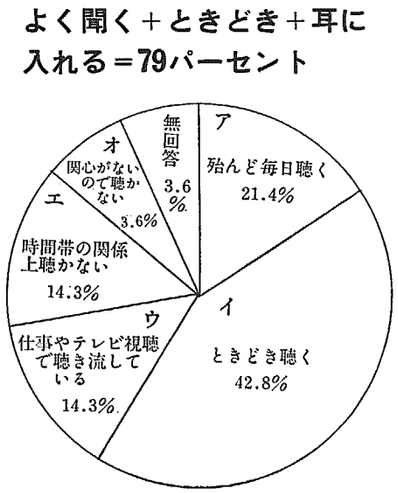
「地区からのお知らせをします」とページング放送を利用する区長さん

有放が27%でトップ

今の有放開局前（55年10月）に行なった「広報よこごし」のアンケートでは、有放は一二・七%で第四位でしたが今回は、有放が二六・八%に昇り、いきなりトップに躍りでました。

情報は、様々な形で伝わっていきますが、有放が地域の情報源として評価されてきたともいえます。

問2. あなたは有放を聴いていますか。次のうちから一つ、○をつけてください。



よく聞く＋ときどき＋耳に入れる＝79パーセント

昨年七月、一般を対象としたアンケートでみると、何らかの形で聴いている人は、約八〇%ありました。今回もよく聴いている人から仕事しながら、テレビみながら、というものまで含めると、七八・五%になります。

どちらも約八〇%位の人が聴いていますが、ながら聴く人や関心がない人にも聴き逃せないモノにしなければならないと思います。

問3. あなたは、今まで有放を聴いてどんなことを感じましたか。次のうちから二つ○をつけてください。（自主番組についてのみ）

ア、村や農協の内容が多く村民や団体の放送が少ない	19.4%
イ、時期的タイミングの合わない内容がある	—
ウ、各分野にわたっているが内容が浅い	7.2%
エ、日常生活にあまり参考にならないものがある	3.6%
オ、一方的な話が多く面白くない	7.1%
カ、話しが長くつまらない	3.6%
キ、難かしい言葉や数字が多く硬い	—
ク、身近な事例をあげた興味ある話しが少ない	12.5%
ケ、重要なものは分り易い解説が必要	16.1%
コ、村の歴史、文化財、民話などがない	7.2%
サ、その他	5.4%
（無回答　17.9%）	

役場農協の放送が多すぎる

役場、農協からの放送は、確かに全体の半分以上（56年11月全体25件、うち役場、農協13件）占めています。「多すぎる」とされる一九%は一番多く、次いで「重要なものは分り易い解説を」が一六%ありました。

自主番組の放送時間は、おおむね五分を限度としているため、突込不足、詳しい解説の足りないことは否めないと思います。「身近な事例、興味ある話」が少ない、が一三%あり、これらも文化、娯楽もの及び一般住民の登場不足が指摘されています。もっと親しまれ愛される内容が望まれていると思います。

問4. 放送技術や企画、構成などについて特に感じたことを次のうちから二つ、○をつけてください。

ア、時々番組を変更して放送される	1.8%
イ、マイクレポートなど録音構成番組が少ない	3.6%
ウ、みんなが分る音楽が少ない	7.1%
エ、対談やインタビューなど工夫が少ない	12.5%
オ、役場からの放送が多い	1.8%
カ、音量調整が一定してない	—
キ、広く村民が登場する企画が少ない	10.7%
ク、朝のメロデーにふさわしくない音楽もある	1.8%
ケ、村のできごとニュースが少ない	25.0%
コ、娯楽番組が少ない	1.8%
サ、その他	7.1%
（無回答　26.8%）	

対談などの工夫を

無回答二六・八%は、二つ回答を求めたものに対し、一つの回答あるいは聴いていない人が無回答であったことなどから高率となっています。

地区での取材もだいじな仕事

回答したなかでは「村のできごとニュースが少ない」が二五%。次いで「対談やインタビューなど工夫された放送が少ない」が十二・五%、「広く村民が登場する放送企画が少ない」が一〇・七%となっています。

これらは、放送体制の基本にかかる指摘でありスタッフの未熟な点も含め今後大いに努力し、住民のニーズに応えて行かなければなりません。

アナウンス、プロデューサー、取材（記者）など、放送機能の充実を図って行くことと、広く住民が登場（利用）する内容となるよう、十分研究改善しなければなりません。

月1回 カラオケ登場

みんなで利用し親しもう

昭和57年度
—有放自主番組—

有線放送協会では、昭和五十七年度の自主番組放送計画をたて、次のように実施していくことになりました。

年間の放送日数は、日曜日等を除いて三一二日。

このうち、「農事通信」五二回、「話しのサロン」二八回、「農協アワー」二四回、「明るい広場」五一回、「公民館だより」二七回、「学校だより」二四回、「ライフ情報」三八回、「マイクレポート」一二回、「特別番組」四回を放送する予定にしています。

なかでも、有放モニターや村民からのご意見が多くあった「広く村民が登場する放送を」、「興味ある放送内容を」などに応えて、左の表のように、シリーズもの、企画ものが充実され〝カラオケのど自慢〟〝村の昔話し〟〝事業所訪問〟が新しく企画され、村民が有線放送に登場する機会が多く計画されています。

ことに、いまカラオケファンが急増し、ブームとなっているところから毎月一回（二人程度）の放送のほかに、年一～二回のカラオケ大会を開く計画を検討しています。

自主番組のシリーズもの・企画もの

行政ガイド	年金の知識	年4回
	国民健康保険の知識	4
明るい広場	ディスクジョッキー	7
	この人を訪ねて	6
	グループ、サークル紹介	6
	事業所訪問	6
	俳句	4
	短歌	4
	カラオケのど自慢	12
	村の昔話し	6
公民館だより	母と子の会話	12
マイクレポート		12
ライフ情報	消費生活	6

守れ人権追いだせ暴力

差別と人権

横越中学校三年　斎藤里香子

（神田初島）

「人権」といわれても、中学二年頃までは「何のことだろう」と思うだけで、全々気にもとめていませんでした。けれど中学三年になり、公民で人権の意味を知り、そして今回の「人権擁護についての講演」を聞いて、人権とは幸福な人生をおくるために欠くことのできない権利であることを知りました。すべての人間が生まれながらに持っている生命・自由・名誉などに関する権利、これが人権なのです。

今回の講演では、「他人の人権を守ることによって、はじめて自分の人権が守られる」ということを知りました。現在の生活だって、共存関係でこうやって成り立っていると思います。おたがいに助け合える人々がいて、おたがいに相手の立場になって考え人権を守ることが私達の生活の中でまだ十分とはいえません。まだまだ自分のことばかりを考えて行動している人が今の社会では多いように思います。私もその一人かもしれません。

いつだったか、母の友達からこんなことを聞いたことがあります。「同和の話って知ってる？」と聞かれた時は、（小さい頃、本で読んだあの童話かな？）と思っていました。しかし実際、話を聞いてみると、部落差別についての話のことでした。

今、国会では、部落差別が問題になっています。「差別されている部落の人が働きたいといってもほとんどの会社では採用してくれず、また採用されたとしても白い目でみられている。」のだそうです。なぜ、このような部落差別がおこるのでしょうか。昔から身分のすごく低い人々がその部落に多く住んでいたことから、このような差別がおきたのです。そんな部落差別をなくすため、母の友達が勤めている人達を何回かに分けて、同和の話をするのだそうです。

さいわい、私達の住んでいる村には部落差別の問題はありませんが、この日本には数えきれないほどの差別されている部落があるかもしれないのです。部落差別問題は、私達みんなが関心をもって、その解消に努めなければならない大きな問題の一つだと思います。差別と人権については、私達の身近かなところにもたくさんあります。

小学校の頃、珠算の検定を受けに行く途中のバスの中でのできごとでした。ある停留所でおばあさん二人が乗りました。あいにくなことに、バスの中にはあいている席がありませんでした。私は、始めのうち少したためらっていましたが、「おばあさん、どうぞ！」といって、席を立ったら、「ありがとうね。」と、席につきました。私は、その日とてもすがすがしく、気持ちよい一日をおくれました。考えてみればこれも人権の一つだったのです。老人を差別することになるかもしれませんが、この場合は、むしろ幸福な人生を他の人にもおくらせるための人権なのです。

私達一人一人が互いの人権を守って人生をおくる。そんな社会になったら、どんなにすばらしい生活をおくることができるでしょうか。

私達の横越は「人権モデル地区」に指定されました。これを機会に私達も人権についてよく理解しなければと思いました。

横車押されて曲げるな人権を（小林竹生）

昭和56年度県下中学生人権作文＜優良作＞

お互いに人権尊重豊かな暮し（小舟戸タカ）